

森の幼稚園

すつかり御無沙汰をしました。讀者の方々も編輯の方々も、なにが書いてよこしそうなものだと思つておいでだろうにと思ひながら長い御無沙汰をつらけてしまひました。そのうちに此の國を去る日も近づいて來ました。歐羅巴へ行つたらといふのも、餘りあてにならないお約束です。こゝいらで一つ位おたよりをして置かないと、少々濟まないといふ様な氣もして來ました。旅には暮も師走もありませんけれどもね。(十二月三十日)

此の國へ來てから、幼稚園も大分見せて貰ひました。名に聞いて居たコロンビヤ大學の幼稚園も、シカゴ大學の幼稚園も、ゆつくり見せて貰ひました、よく見れば、ためにならないものはありません。こゝを拾ひ、あすこを拾へば、一つとして有益な資料でないものはありません。しかし其の中で、一何んと言ひませうか—私の一番好きなどでも言はせて頂きませうか、兎に角く最も私の心を惹いた幼稚園が一つありました。

シカゴに居た時でした。有名なミス・ハリスが校長をして居られるナジヨナル・キングダーガートン・エン

ニューヨークにて 倉 橋 惣 三

ド・エレメンタリー・カレッヂを訪ねました。その日の私の目的は保姆科の方の參觀でした。そして、どこを參觀しても何時も感じる様に、自分達が國でして居ることに、まだ足りないところの、いくらもあるのを思つたりしました。此の學校には生徒の實習の爲め幼稚科も勿論ありました。私はそれも見せて貰ひました。

その時、今まで亞米利加で見た幼稚園に就て、どう思ふかといふ様な話が出ました。大きい都會の幼稚園は自然味の餘りに少ないのが遺憾に思へると私は答へました。それが無理な注文であることは私もよく知つて居るのです。出来るのをしないのでなく、出来ないから仕方がないのであることもよく分つて居るのです。それでも私の心持は、さう答へざるを得なかつたのです。これは批難ではありません。誰でももの希望でせうと、私はつけ加へました。私を案内して校内を見せて下さつたミス・ヘンミングウ

エーは黙つてうなづいて居ましたが、若しお暇が出るのなら、ドーナ・グロブの幼稚園へ行つて見ませんか、あの幼稚園はきつとあなたのお氣に入りますと言ひながら、紹介状を書いて呉れました。私が此の國で一番好きな幼稚園を見出し得たのは實にミス・ヘンミングウエーの賜であつたのでした。

天氣のいゝ五月の或る日でした。朝はやく、シカゴのユニオン・デーパーからシカゴ・ブルミントン・エント・クエンシーの線を通りました。汽車は暫くの間、汚いシカゴの裏町を通つて居ましたが、やがて窓の前に、青い野が打ち展けて來ました。野についで丘が見えて來ました。丘を越えて林があらはれて來ました。林の間には小川もありました。私は久しぶりの此の田園の景色に、息のつまる様な心持ちをしながら、窓に近く倚つて、車の外を見つめて居ました。野のなだらかな斜面には蒲公英が敷き詰められた様に咲いて居るところもありました。やはりかい丘のうねりに沿ふて、放たれた牛の群の、靜かに草を食みながら歩いて居るところもありました。遠くつゞく林の未は霞む様に煙つて、白い五月

の空に連るのも見えました。汽車の進むにつれて、林の蔭にかくれては又あらはれる小川の流れの、ゆるやかに岸の草を浸して居るのも見えました。沿線の停車場も名も、そのどこか／＼の趣きにふさわしく呼ばれて居ました。野、丘、谷、小川、森、森といふ様な語がそれ／＼につけてありました。こんなことも時には非常に嬉しいものです。一時間ばかりして、私はドーナ・グロブの小さい停車場に着きました。

ドーナ・グロブは極く小さい田舎町です。停車場通りに、少し許り町らしい飾り窓の店竝がありましたが、それも數丁とはつきまますまい。人通りのゆつくりとした一筋町で、兩側の家の後ろは、直ぐ森になつて居るといつたところです。鐵道の踏み切りを越すと、往來の店さきに、牛乳のあき鐘を荷馬車に積んで、その御者臺の上に、粗い辨慶格子の服を着た若い血色のいゝ娘が、馬の手綱をひかへながら、お婆さんと呑氣そうに話をして居るといつたところです。しかし、貧しい卑しい町ではありません。後で聞くと、古い農家の多い町で、外來移民の少ない。昔から人氣のいゝ、健實な土地だといふことです。

私は寫眞のフィルムを買ふ序に、ある藥屋で、此の近所に幼稚園があるかと聞いて見ました。私はこんな曖昧な問ひ方では、多分わかるまいと思つて居たのでした。すると愛相のいゝ番頭さんが、幼稚園といへばあの幼稚園のことさと言つた風に、直ぐ其の道を教へて呉れました。それから、丁度店さきで徐ろに煙管をくゆらして居た隠居さんらしい人は、私といつしよにわざ／＼戸の外まで出て、此の通りを斯う行つて、あの白い家の角を右へ曲つてと、太い指で指さしながら、親切に教へて呉れました。

本通りから、教へられた運送屋の角を右に曲ると、そこはもう道の兩側が森になつて居ました。その曲り角の標柱に森通りシノストリートとあるのもうなづかれました。森の中には、廣い間隔をおいて、まばらに家がありました。その中の一軒、淡褐色の煉瓦建で、落ちついた品のいゝ家、私はそれを訪ねて見ました。森の中の小徑傳ひ、門もなければ、もとより標札もありません。これに相違ないとは思ひながらも、若し間違つたらといふ氣づかひもあつて、私はそつと戸口の前に立つて見ました。見まわして見ても、呼び

鈴がありません。私は裏の方へでも廻つて見ようかと思つて居ると、中から朗かな子供の笑ひ聲が聞えて來ました。私は、もう安心して、ドアを押しました。丁度そこへ、横の室から一人の若い先生らしい人が出て來ました。私は紹介狀に自分の名刺を添えて、來意を通じて貰ふ様に頼みました。

その若い先生が廊下を與へゆくと、少しゝて數人の男の子と女の子が、にこ／＼しながら私の前へ來ました。私はもう自分の幼稚園へでも來た様な氣がしました。そしてその子供達の後ろに、見るからに眞摯な、人なつこしいミス・マルセを見ました時、すつかり心やすい心持になつて仕舞ひました。

ミス・マルセは眞ぐ私の手を握つて、ほんごうに遠方から、よくまあ訪ねて來て下さいましたと、それも口數多くいはずに、もつと眞實な笑顔で迎へて呉れました。その心おきない態度には、人が人を迎へる眞率な親しみといふものが充ちて居ました。多分此の幼稚園は、參觀者といふものにスポイルされて居ないのでせう。否、いくら參觀者が多くあつても、一人々々を心から客として迎へ得る、やわらかな素樸な人間性が、此の人の裡に洩れない程に豊かにあ

るのでせう。私はその時こんなことを考へたのでは
ありません。たゞ後から思ひ出して見て、まだ何も
見せて貰はないでも、此の第一の印象が、此の幼稚
園を私のすきな幼稚園にするのに充分であつたと思
ふのです。私は自然味のある幼稚園を求めて来て、加
ふるに人間味のある幼稚園を興へられたのでした。

ミス・マルセは、そこに居る子供達に私を紹介しま
した。軽くかゝむ様にしては、此の方はね、遠い日
本からいらしたお客さまですよ、一人々に丁寧
に紹介して呉れました。子供達はにこやかに私を
見て、銘々に其の可愛らしい小さい手を私に握らせ
て呉れました。あの、しつとりとした、落ちついた、
幅の餘り廣くない、天井の餘り高くない、光りの餘
り明る過ぎない、人睦ましい廊下のさまが、今もな
つかしい心持ちを誘ひます、そこには人の子を集め
て訓練して居るといふ様な、よどんだ嘆ひは少しも
ありません。幼児等を集めて、強めて遊ばせて居る
といふ様な、わざとらしさの交る騒々しさもありま
せん。私は、靜かに其の廊下を歩きながら、幼稚園
に居て、幼稚園を忘れて仕舞つて居ました。

其の案内の仕方が、之れまた懇切と而して自然と

を極めたものでした。此の人は、ほどのよさといふ
ものを一分も缺きませんが、少しでも超えてゆくこ
とがありません。此の人には形式といふものは、ど
こにもありません。それで居て、おのづからの心の
こまかさに、ものゝ順序がちやんと立つて居ます。
ゆき届いて居ながら、人のさきにゆきません。私を
案内するの私について来るのか分らない様に歩き
ながら、何か私が意をこめて、立ちどまる様なこと
があるど、そつと暫く自由に放して置いて、頃のよ
い時にまた私の傍へ来ては、靜かに私の問ひに答へ
て呉れました。私は參觀に来て參觀に来て居ること
を忘れました。

建築にも非常に細かい意の用ゐられてあるのを見
ました。外から見た感じからいへば、普通の住宅と
多く變りません。それも極く地味に、入口なども、
わざと正面でなく、少し左よりの張り出しの傍に、
葉の高い老樹の蔭に倚り添うやうについて居まし
た。土地の勾配を上手に使つて、玄關から右が、氣
のつかない様に低くなつて居ます。そこに、此の家
の主要部が、出入參差、角の多い面白い設計を見せ

て居ます。

一層趣きのあるのは、内部の間取りです。玄関から廊下を奥へゆくと、中ほど右側に、上へ四五段下へ四五段の低い階段があります。上と下との廣間へ導かれて居るのです。私は此の階段のつけ方を、いひあらはし様もなく面白く思ひました。廊下を中二階風の位置に置いたところに、變つた味が出て居るのです。その階段のくひちがひ方も何となく謎めいて居ります。可愛らしい子供の足でどん／＼と上から降りて来て、くるりと後ろを見せて、そのまゝまた、どん／＼と下へ消えてゆく軽い足音のあとを追ふて、私は思はず、ほゝえまゝには居られませんでした。此の階段で導かれて居る上の方が幼稚園で、下の方が初等科(小學一年級と二年級)です。先づ上へゆきます。

階段のつき當りは、一寸した小さい溜りになつて居ます。その正面には、例のトイブネル版の大きい野の景色の繪が掛けてありました。その前に脚の高い小卓を置いて、白櫻の花が、陶器の花籠に投げ入れて活けてありました。右と左とにドアが開きます。ドアの内の廣い室です。木材は皆濃い栗色の

光澤のない塗りで、牀は厚味のある濃い茶色のオリエンタルラグ、天井と窓かけとは稍々明るい淡茶色で、全體の色調が、如何にも、おつとりと落ちついて居ます。私は入口に立つたまゝ暫くおつと見入つて居ました。そこに置いてある小さいテーブルや椅子の類がすべて室と同じ調子の色をもつて居ることは言ふまでもありません。左右の入口の間一ぱいに、大きいピアノが置いてあります。

此の廣い室が八角の室であることは、暫くしてから氣がつきました。氣がついて見ると、私は一種の喜びにたえませんでした。遊戯室を中央に大きくとつて、それを放射狀に數個の小さい部屋をつけるといふ設計は私の長く机の上で描いて居た考へでした。後、岡山市の幼稚園で、此の考へに似たものを見出した時に、私の設計が實現出来るものだといふことの保證せられて居るのを喜んだのでした。それをまたこゝで見ようとは思ひもかけないことでした。私は自分の此の考へを、一度も自分で實現して見たことはありません。しかし、それを、もう遺憾のことと思ひません。こゝに私の考へが一層よきものになつて實現せられて居るのです。

八角の室は、取り圍む様に四つの窓をもつて居ます。その窓は二尺ばかり張出されて、高い一ぱいの硝子障子になつて居ます。私は、わざと硝子障子といひます。日本流の硝子戸でなく、アメリカ流の一枚硝子でなく、趣の深い細かい棧になつて居るので、私は此の硝子障子を前に、日のさし込んで居る。明るい張り出しの腰板の上で、人形の著物にアイロンをかけて居た、女の子の後姿が今も目に浮んで來ます。

四つの窓を挟んだ四つの面は、ピアノの處に立つて見て居るとして、正面がストーブ、右と左とが長四角の室になつて居ます。その室は、いづれも三方を明るい硝子障子にかこまれて居ます。右の室には、その日大形の牀上積木で家が出來て居ました。左の室には、中の窓一面に横廣い大きい水盤を据えてありました。小さい噴水が水面から一寸ほどの高さに噴いて居ました。底には、水草が青い葉を洗めて居ました、無器用な木片の舟が一つ、岸にくつついて、もやつて居ました。

中央の廣い室には、窓に近く小さい机が一つ、或は二つ、或は三つ置いてありました。椅子には一つ

一つ椅子蒲團が敷いてあるのが、澁い、暖い淡褐色の、中に東洋風の丸い模様のある麻織物で包んでありました。私は此の椅子蒲團を見て、思はず、いゝです。ねえと言ひました。ミス・マルセは黙つて笑ひながら、自分でも軽く、其の蒲團にさわつて見たりしました。

ストーブは古風な、造りつけの大きな爐です。傍に、くすんだ大きなふいごなどが懸けてありました。傍素より、全體の室温は他の設備でとる様になつて居るのですが私は、雪が此の森の家を埋めて居る日に、此のストーブに燃える明るい火を想像して見たりしました。

ストーブの兩側がドアーになつて居て、その外が子供の細工場になつて居ます。ストーブの後ろといふことが、如何にも細工場らしい心持を伴ひます。こゝだけは木切れ、鋸屑で程よくちらかつて居る中に、いろ／＼の大工道具などが置いてありました。下の室も、輪廓は大體之れと同じです。

其の日は金曜日でした。一週一度づつ、幼稚園の子供と、初等科の子供と、いつしよに集つて遊ぶこ

とにしてゐる日でした。案内されて下の間にはいつて見ると、三十人程の子供が、ラツグを敷いた牀の上に、可愛らしいあぐらをかいて、坐つて居ました。

前の方がずつとあいて居て、小さい椅子が不規則に列べてありました。やがて、上の廣間から、例の階段を幼稚園の子供が降りて来ました。初等科の小さい兄さん、小さい姉さん達が、にこ／＼しながら拍手をして迎えました。前の方にあけてあつた椅子はそのお客さん達の爲めでした。皆が坐につくと、静かなピアノの音が聞えて来ました。若い音楽の先生は、そのすらしつとした肩と脊とを見せて、キイに向つて居ました。私には何の曲とも知らない曲でした、多分名のある名曲なのでせう。音楽味の高いものでした。子供達も、酔ふ様にして聽いて居ました。

その一曲が終つてから、子供達の可愛らしい唱歌や、遊戯が始まりました。第一に數人の樂隊がありましてから、いろ／＼のエンターテメントの中には、幼稚園の女の子が、自分で縫つて來た人形の蒲團を小さな手に擴げて見せたりしました。初等科の或る男の子は、兄さんらしく手を半ズボンのポケットに入れたりして、自作のお話をしました。幼稚園

だけの合唱もありました。初等科だけの合唱もありました。その時には、互に喝采しあふのを忘れませんでした。其の日丁度、學校の組の先生がお休みとかで、この卒業生の小學三年生の女の子が遊びに來て居ましたが、上手なピアノを弾いてきかせました。皆は此の先輩の好意に對しても熱心に喝采しました。初等科の子供のインヂェン、ダンスには東洋のお客さん、すつかり感心させられて仕舞ひました。おしまいに、羊飼ひの簡單なメロドラマがありました。多勢の子供がぞろ／＼／＼／＼／＼ながら出て來て、羊の聲を眞似たりしました。二人の羊飼ひが枯枝をもつて、其の間を歩いたり、軽く羊を追つたりしました。可愛い、羊達は、時々人間の子供の様な聲を出して、笑つたりしました。

私は我國の幼稚園で時々見る、幼兒演藝會には、少しも興味をもつて居ないものです。それは、どうかすると子供の自然以上のものになり易いからです。しかし、此の日の此のあそびには、少しも、そのういふところがありませんでした。一週の終りの金曜日朝の朝をかうして皆で楽しく遊ぶといふ、その團樂の心持ち以上に少しのわざとらしい處もありませ

んでした。私といふ外國人の居ることも、少しも皆を意識的にして居ません。私のすぐ前に兩足を投げ出して坐つて居た女の子が、何か可笑しいことがある度に、私をふりかへつて見て、小指に細い指輪をした小さい左手で頬をおさへながら、ミソ齒を出して笑ふのが、如何にも面白くてたまらないといふ様でした。

此の團樂が終ると、ミス・マルセは私をつれて外へ出ました。初等科の細工場の後から、屋根なしアスファルト敷きの小さいバルコニーを通つて地へ降りました。そこは、たゞ森の中でした。森の中といふ外に、ほんとうに何もありません。お庭では勿論なし、遊園といつた様のものでありません。地は自然の高低のまゝに、草は自然に生ふるまゝに、何一つ造つたところがありません。私は、田舎家の裏とでもいふ氣がしました。だら／＼と低くなつて、細い溝川に近い處に、鶏小舎がありました。その少し離れた處に、屋根の低い豚小舎がありました。その日は豚は居ませんでした、内部はきれいに整頓せられて、子供用の小さい鍬や鋤が釘にかけてありました。子供達は朝來ると直ぐ、或るものはお部屋の

中を片づけ、或るものは此の小舎へ来て、餌の世話をしたりすることになつて居るといふ話でした。家の眞裏の邊に、ブランコと砂場とがありました。幼稚園の遊園らしいとでもいふものは、此の二つだけでした。しかも私には、その傍に、今を盛りと咲き亂れて居る白櫻ホワイトチェリーの大木と、垣根も塀もない廣い草地を隣りの家の方までつゞく曲りくねつた道の方が、どの位目をひいたかも知れませんが、木立の中には野梅ワイルドプラムも咲いて居ました。

私達は、その裏口から廊下へ上りました。幼稚園の子供が十人餘り、コート室で靴をはきかへて居ました。そこには小さい籠だの箆の様なものが幾つかありました。草摘みに行くのだといふことでした。廣間の方へ行つて見ると、残りの子供達がしんとして遊んで居ました。窓に近いテーブルでは數人の子供が、うすねづみ色の畫用紙に、ふといクレイヨンで繪をかいて居ました。ある机には繪本が澤山散らかつて居る中に、一人で何か讀んで居る子がいました。ある机では、若い先生と差し向ひで二人の女の子が頻りに鍬を使つたりして居ました。その他、小さい方の室にも、こゝに一どかたまり、あすこに

一どかたまり、小さい自然の分園をつくつて居るの
でした。自由に話もして居ます。自由に笑つても居
ます。それで居て、少しのざわついたところがあり
ません。時々、室の中を急ぎ足に歩いてゆく子があ
りますが、厚いラツグの上にコトンとも音がたちま
せん。ある机には高い花纏に、白林檎の花が房々と
活けてありました。ある机には硝子の平鉢に、濃い
紫の堇と、くつきり抜ける様に白い杏の花とが浮べ
てありました。子供はその側を軽やかにゆき來して
居ました。

私は此の日幼稚園と初等科とで觀た一々の教育に
就て、細かく書いた方がいゝのかも知れませんが、ま
た一つ／＼書くだけの價値は充分にあること許りで
した。殊に、初等科の方のことなどは、いくら書いて
も盡きない問題があります。しかし、それには長
い理論もつけなければなりません。それは今の私の
時間のゆるさなことです。今はたゞ、幼稚園と小
學一、二年級とを特に一つにして、全く同じ空氣の
中で教育して居るといふことだけで、賢明な皆さん
の判断を乞ふて置きませう。尤も之れは此園では新

らしいといふ程のことでもありません。私達も國に
居る時から考へもし説きもしたことです。たゞ、こ
こでは、それが如何にも自然に、且つ徹底的に行はれ
て居ます。私が特に此の幼稚園を記憶するには、此
の點も大に加はつて居るのです。お話が前後する様
ですが、此の幼稚園は元來、幼稚園普及協會
で建て、居るのです。そしてそのエキステンション
といふ意味は、初めは幼稚園を世の中に普及させる
といふころでしたが、今は寧ろ、小學校初級の教
育に幼稚園の原理と精神とを延長させるといふこと
にあるのです。此の話が出た時に、穩かなミス・マル
セの口調にも、強い主張の閃きがありました。私に
とつても豫てからの主張です。しかし、それは又別
に論ずべき日がありませう今日はやつぱり、自然と
人間とのお話をもう少しつゞけさせて頂きませう。

私は初等科の細工場の傍にある、先生の書棚の中
に、教育書や博物學の書物の間にまちつて、トロ
の四季日記集のあるのを見つけました。そして、丁度
そこへ來合はせたミス・マルセに向つて、ありますね
と、指さして見せました。ミス・マルセは何ですかと

いふ様に硝子戸に顔を寄せて見て、例の言葉少なに、いゝ本ですねと言ひました。これは私の最も好きなき本の一つです。私は早くコンコードに行つて、トロの愛した自然が見度いと思つて居ます。しかし、今日は、長く自然に餓えて居た私の心が、汽車の沿道からして、すつかり充たされました。こゝに來てからは、此の森の景色が、どの位私を喜ばせたか分りません。こゝにいふ處に毎日ゐらして、あなたは、ほんとうに幸福です。ねえミス・マルセ、あなたはそしてお思ひになりませんか。――斯う流暢にいつたかどうか分りませんが、何しろ今朝から久し振りの自然に張りつめて居る私の心は、トロ集を見るに至つて抑へきれなくなつたものと見えます。ミス・マルセは、此の先生若いなど思つたか、話せるなど思つたか、一寸うなづいて見せて、ほんとうに、自然はよく御坐いますねと、矢張り言葉少なに答へました。子供達が歸つて行つた後でした。私はお暇をしようとして居ると、ミス・マルセは、まあ、なにも御坐いませんが、皆で御いつしよに、お晝を頂きませう。その前に、お好きな森の方を少し歩いて來ませう。お外套はこちらでしたねと言ひながら、自分も奥へ

行つて無造作にコートを着て先きに立ちました。

西洋の婦人の年齢をいふのは失禮だそうですが、此の人は、お母さんとすれば中學上級位の息子さんのあつていゝ年輩です。氣持ちのあかぬけた、容子に少しの氣どつたところもない、叔母さん／＼した人です。さつさと森の間の小徑を歩きながら、時立ちどまつては、私の問ひに答へて、草や木の名を教へて呉れました。森の少し開けた處には、小高い丘につゞく廣い牧場もありました。森が再び深くなつて、道の少し濡めつた低いところには、水際の見えない平な地がありました。向ふは次第に高い斜面になつて、木深く森がつゞいて居ました。池の傍には、うす挑色のスプリングビューチャーが一面に咲いて居ました。その上には梢越しの日光が、いろ／＼の陰影を投げて居ました。私はよくこの邊まで一人で散歩に參りますといひながら、夏は夏、秋は秋でそれ／＼かはつた趣きのある話も出ました。殊に冬の雪が一面に森も池も埋めて居る時が好きですといふ様の話も出ました。私は此の叔母さんが、どの位詩を解して居る人か知りません。殊に、その言葉使ひは、少しも所謂文學的ではありません。しかも森の

中を斯うして、いつしよに歩きながら、此の人の心には、詩が何も特別のものとして離れて居ない程に、詩に富んで居るのではないかといふ様な氣がしました。

歸つて來ますと、若い先生達が玄關に迎えて呉れました。そして、子供の部屋の窓に近く、幼児の机を置いて、雪白なテーブルクロスをかけた二つの食卓が出来て居ました。一人の先生が、こゝは子供の家ですからと言ひながら、小さい椅子に私の席を與へて呉れました、同じ食卓についたのは、私を入れて五人でした。私の向ひに坐つた初等科の主任の方が、私によく話かけて呉れましたが、他の若い先生方は餘り多く口數をきゝません。私はセロリを取りながら、ふと窓の外を見ると、可愛いゝ女の子が一人で、森の中を幼稚園の方へ歩いて來て居ました。あの子とは問ふと、午後の組に來るのですと、主任さんが答へて呉れました。あの子は此の室にはいると、きつと、びつくりしますよ。いつも見なれない熊が來て御飯をたべて居ますから、と言ひますと、別の食卓の人達まで、聲を立てゝ笑ひました。一人の若い先生は、ゴールデンヘヤーが驚くであるであ

らうと口輕に言つて、又笑つたりしました。それから食卓が賑かになりました。私も冗談がいひ易くなりました。私は十年ばかり前に、森の幼稚園といふ小篇を書いたことがあります。それは私の架空の幼稚園でしたが、今私は此の幼稚園に、同じく森の幼稚園といふ名をつけることに、さつきから一人できめて居ますと、言ひましたら、ほんとにね、と言つて皆も笑ひました。

食後、私は各室の額を見て歩いて居ますと、ミス・マルセが、之れから子供のテストをしますから一寸失禮します。何でしたら御覽下さつても差支へありませんといふことでしたから、其の部屋へ行つて見ました。テストはテルマンのインテリゼントテストを使つて居ました。それに別に變りはありませんが、此の部屋の空氣は、心理學的テストまでも、頗る詩味を帯びたものにして見せました。實驗者は、あつさりした白い練絹の服の上に、藤色の絹絲で編んだ薄いスエーターを重ねて、黒い紐で銀の讀書眼鏡を頸からさげて居ます。其の前にて机を挟んで腰かけて居る小さい被験者は、緞茶の服に、赤い格子縞の子

クタイをして、房々したブロンズの髪が耳のあたり
に形のいゝ渦をまいて居ます。實驗者は紫と黄とに
塗りわけた短い鉛筆の、小さい茶のリボンのくゞり
つけてあるのを手にしながら、型の如く順々に問ふ
ては、ちよい／＼と書きつけて居ます。被験者は、
その利口そうな横顔に、先生が變なことを、次から
次へお聞きになるのが可笑しくてたまらんといふ様
な口もとを見せて、はき／＼と答へて居ます。室は
ミス・マルセの自分の部屋と見えます。大きなどつし
りしたデスクが部屋の一方を占めて居て、その上には
小さい藤の平籠や、銅製の立て曆などが置いてあ
る中に、たつた一輪さしたチューリップが、あの愛
くるしい色を見せて居ました。壁際に寄せて置かれ
た本立てには四五冊の本が格好よく列んである間
に、去年出たドリンクウオーターの新らしい詩集も
ありました。ドリンクウオーターは此國の現代抒情
詩人の一人で、人間味の多い新らしい詩を書く人で
す。私は其の淡紅色の紙表紙の背に、あつさりポエ
ムスと書いてある瀟洒な装釘を見ながら、はゝあ、
此の室の主人は果して、こういふものを愛讀して居
る人であつたかと思つたりしました。

幼稚園は人です。つまり先生の人柄です。

○計畫のいろ／＼

△煙草專賣局で乳兒保育所を新設

煙草專賣局は全國を通じて數萬の女工を使用して
ゐるが寄宿を廢し全部通勤制度を採用してゐるので
従つて女工も支局所在地附近で多數集めようとする
れば未婚婦人許りでは其需要を充たすに足らないので
既婚婦人も可なり多く約三四割も占めてゐると云ふ
が家庭に於ける勤めと女工としての生活を如何に調
和せしむべきかは問題で專賣局では今度その解決方
法として新たに乳兒保育所を設置する方針が成立つ
て其第一著手として淀橋專賣局内にそれを新たに設
置する事になつた右に就て同局今井職工係主任は
『此處には約三千人の女工が居りますので子供を持
つて居る者も可なり多い様であります乳兒の保育所
は今迄は公に設けてあつたのではなく休憩室に三十
人許りの乳兒を集めて二三人の子守女を雇つて其世
話をさせて居たものです今度擴張する必要に迫ら
れて來たので舊食堂跡に新築する事になり既に設計
まで出來てゐますが近々建築を始めようと思つてゐ
ます』と話してゐた。